

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	85.5	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.9	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	95.1	92.4

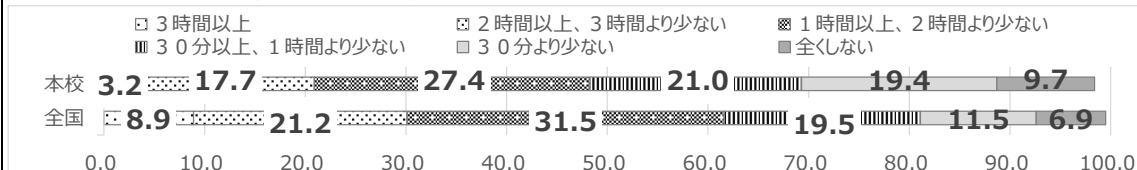
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎『学び合い』を取り入れた学習活動を通して、自ら考えて課題に向き合う主体性が身についています。
- ◎互いの意見を尊重し合いながら協力して物事に取り組む人間関係が育まれている様子が見られます。
- 主体的に学習を進めるためにも、学校の時間以外で取り組む学習習慣の確立が求められます。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	80.6	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	79.0	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	77.4	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	69.3	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	79.1	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	88.7	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎学校生活の中で充実感を覚え、将来の夢や目標をもちながら過ごしている様子が伺えます。
- ◎人や地域社会の役に立ちたいという思いが強く、他者や地域への関心が育っています。
- 学校生活の中で、自己有用感を得られるような働きかけが必要です。
- 周囲の人と関りながら、学習や各種活動の中で楽しみを見出せるような働きかけが必要です。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.8	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	72.5	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

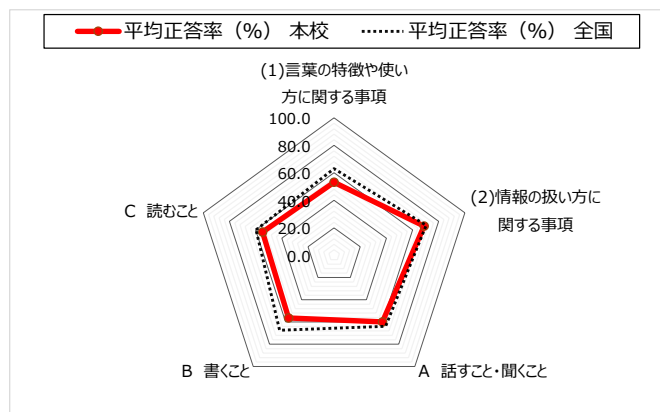
- 子どもが自ら考え、選択し、対話しながら考えを広め深める『学び合い』の視点で授業づくりを行います。
- 子どもが安心して自分の考えを表現し、互いの考えを尊重し合える学校環境と授業づくりを進めます。
- 学びを振り返る機会を充実させ、自分に合った学び方や、授業時間以外の勉強や課題の進め方を調整する力を育みます。
- 学校生活の様々な場面で子どもの出番を大切にし、その過程や挑戦を認め「夢に向かう」ための働きかけを行います。

【ご家庭では】

- 学校での学びや生活の様子についての子どもの話に耳を傾け、粘り強く努力する過程や挑戦を促すとともに、認め、励ますような声かけを継続して行ってください。学校とご家庭とで連携して、子どもたちの「夢実現」を目指しましょう。
- 子どもの将来の夢や目標を共有し、現在の学びや生活とのつながりについてともに考える伴走者として見守り、よりよい未来に向かうための親子での対話の時間を大切に行ってください。また、親子で1日の学習時間を話し合い、「我が家のルール」を作って実践する働きかけをしてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	53.1	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	68.8	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.9	63.9
	B 書くこと	56.3	67.4
	C 読むこと	54.7	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	65.5	72.7
短答式	49.0	55.8
記述式	37.0	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎場面や目的に応じて話の内容をとらえる力や、表現の効果を考えて表現する力は全国平均とほぼ同じで、概ね身につけています。

●場面や目的に応じて読み取った内容を整理し、他者の意見を取り入れて考える力に課題が見られます。問いの答えに向かう過程での対話をさらに充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 二	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	71.9	70.4
3 二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	92.2	92.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 四	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	28.1	45.0
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる	34.4	38.9

調査結果を受けて

【学校では】

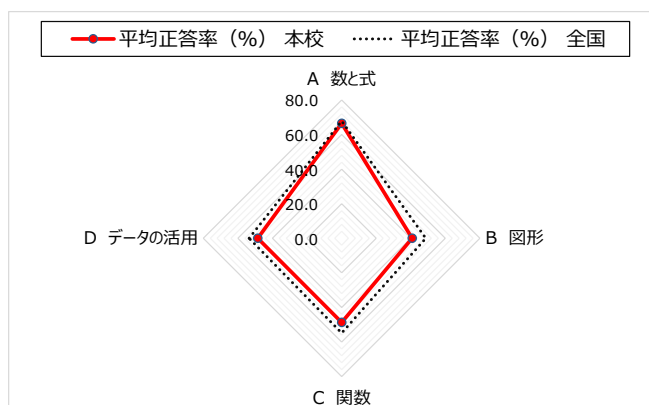
- 子どもが主体的に学ぶための言語活動を充実させるとともに、単元学習を通してどんな力を身につけているかを提示し、目的意識のある『学び合い』を進めます。
- 話す、読む、聞く活動を組み合わせながら、自分以外の他者と意見を交流し、自分の考えを深めたり広げたりする過程を大切に、自分の考えを形成できるようにします。

【ご家庭では】

- 日常の言葉にこだわることを勧めます。読書はもちろん、小学生のころのように音読をすること、好きな曲の歌詞を自分で書き起こしてみること、ドラマの気に入ったセリフを書き起こすこと、敬語を意識して使うことなど、さまざまな方法があります。ぜひ、ご家族と一緒に楽しむ雰囲気を作ってください。
- 授業はワークシート以外にも、学習用PCを使っている活動を行います。作品にアドバイスをいただくをお願いをしたり、コメントをいただくをお願いをした際は、ぜひお子様のために協力ください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	66.5	67.8
B 図形	40.8	48.7
C 関数	48.7	54.8
D データの活用	48.5	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	59.5	59.3
短答式	57.4	64.2
記述式	35.0	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「関数」領域の問題解決の方法を数学的に説明する記述問題で全国平均を1.5ポイント、「データ活用」領域の箱ひげ図と四分位数の対応を選択する問題では全国平均を8.8ポイント上回り、必要な情報から根拠を読み取り、根拠を基に考える力が育っています。

●「図形」領域の考察の対象となる角を的確にとらえる問題や、証明する事柄の仮定を見出す選択問題など、思考の過程の説明に課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	35.4	33.9
9 (2)	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	84.6	75.8

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
8 (1)	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	43.1	62.5
8 (3)	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	29.2	37.1

調査結果を受けて

【学校では】

○基礎的な計算問題に繰り返し取り組む定着の時間を設けるとともに、単元の振り返りやスモールステップで確認テストを行うなど、既習事項の復習ができる環境を整え、基礎の確実な定着を図ります。

○授業の『学び合い』では、互いに説明し合う活動を多く取り入れ、自分の考えをアウトプットしていくことで、「思考力・判断力・表現力」を伸ばします。

【ご家庭では】

○学習用PCを使って、基礎的な計算問題にも、応用問題にも取り組みことが可能です。考える過程で「どのように」「なぜ」「別のやり方では」など、さまざまな角度から問題に取り組むように声をかけてください。

○テストのとき直しやワーク等の課題で分からないことがあった時には、解答を見て解き方を考え、類似問題に挑戦したり、ご家庭でも対話したりしながら、より深く理解できることを大切に応援してください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	469
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1 / 2	1.9 / 5	0.5 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
2	聞くこと	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
7	読むこと	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
3	聞くこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
12	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 日常的な話題について、聞いたり読んだりした内容を理解し、必要な情報をとらえる力において、全国平均をやや上回っていることに加え、無回答率も0パーセントであり、自信をもって答えることができています。

● 目的や場面に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理して英語で表現する力は、全国平均を下回り、無回答率も13パーセントであり、課題が見られました。

調査結果を受けて

【学校では】

○生徒が自ら考え、表現したくなるような言語活動を充実させるために、目的や場面、相手意識をもって表現する場を設定します。

○聞く、読む、話す、聞く活動を効果的に関連付けながら、それぞれが自分の考えをもち、『学び合い』を通して様々な形で表現し合う授業づくりを進めます。

【ご家庭では】

○英語は思いを伝えあうための言語です。「正しく答える」こと、「楽しんで伝える」ことの両方を大切に、お子様が日常生活で世界の文化に興味をもてるような機会を大切にしてください。

○学習用PCを使って、表現活動をしたり、課題に挑戦したりすることがあります。ぜひ、お子様の書かれた文章に目を通して、前向きに努力する姿を応援してください。